

三心を磨く

学校だより NO. 6

平成30年 5月11日(金)発行

須坂市立東中学校

文責：金井勝久(教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

◇◇授業の様子から～協同的な学習に取り組んでいます◇◇

学校長が先日のPTA総会でもお話しましたが、本年度も各授業において「授業改善」「ICTを活用した授業の実践」「協同的な学びの推進」が行われています。今回はその姿をご紹介します。

写真右は1学年の「英語」の授業からです。

ご覧のように、隣同士が楽しそうに対話をしながら授業が進められています。

どのペアも授業にのめり込み、男女のペアであるにもかかわらず、恥ずかしがることも嫌がることもなく、至極あたり前に自分の考えを発信し、仲間の発表を聴き、それについて意見を言い合うことが自然にできています。

一見、「どこの学校でもできていること」「別に

たいしたことがないこと」のようにも思いがちですが、この姿はなかなかみられない素敵な姿であり、本校が目指している学びの姿であります。

写真左、これは2年生の「国語」の授業からです。

ここでは、4～5人の生徒が机を合わせ、1つのグループとして話し合い活動が行われていました。「僕は〇〇だと思うのだけど、どうかな?」「私はそれでいいと思うよ」「私も」「僕の考えも似ているよ」といった会話や、「こここのところがわからないんだけど」「そこはね、こうやるといいよ」などと

いった教え合いもグループの中で展開されていました。これは私たちが大切に考え、伸ばしていきたい姿の1つであります。特に人と人がかかわる姿や、教え合い・聴き合う姿は、一般社会にでてからとても必要とされているものであり、学び合う学校の姿であります。ここ2年間余りで整備された、全国トップレベルに迫るICTを活用しながら、さらに協同的な学びを進め、深めていきたいと思えます。

◇◇「美しい学校に」④ ◇◇

～「10分間」を真剣に！時間いっぱい！！に～

本校の清掃時間は「10分間」です。他校では「15分間」が主流ですが、あえて「10分間清掃」に取り組む東中です。生徒たちは、この短い10分間を意識し、時間いっぱい清掃をします。なぜなら、手を抜いている時間がないのです。

生徒数が減少している昨今、1人当たりの清掃場所は以前に比べて広がっていますが、生徒たちは以前に増して一生懸命清掃をしています。膝付き清掃は今や東中の伝統であり、あたり前の姿です。生徒たちは、清掃においても「美しい学校」をめざしています。



◇◇1 学年「妙高宿泊学習」～話し合って課題を解決～◇◇

5月8・9日の2日間、1学年46名全員が「妙高宿泊学習」の体験をしました。この行事は今年で2回目、登山やキャンプとはひと味違った「学習」、「学び合い」の学習が展開されました。

1日目は野外「オリエンテーリング」と室内での「妙高アドベンチャー」がメイン活動でした。

心配された雨も上がり、地図を片手に妙高高原をグループで駆け巡りました。準備されたチェックポイントを回ることはもちろんですが、時間も大きなポイントの1つです。早すぎても遅すぎてもマイナスポイントが加算されてしまうというルールから、時計を見ながら慎重に回りました。

3～4 kmほどを1時間30分でトレッキング、ゴールする頃には半袖になっている生徒もみられました。

妙高アドベンチャーでは、ゲームを通して「協力」すること、「一緒」に楽しむこと、「自ら話す」

こと、「友だちの話を聴く」こと、「互いの考えをぶつけ合う」こと、「友だちと対話する」ことの大切さや有効性などを楽しみながら学びました。

様々なゲームをしていく中で、失敗や困難に直面した生徒たちには、「こうしたらどうか」「こうやったら回数が増えるはずだ」「ここに問題があるのではないか」などという『思い』が生まれます。

すると生徒たちは、その「思い」を一緒にゲームをしている仲間たちに『伝え』たくなります。そこに「話し

合い」や「対話」が生まれ、『意見交換』『協同的な学び』へと発展します。そして「互いの考えをぶつけ合う」中で、「相手の考えを理解しよう」などと考え始め、「よりよい方向」を求めていきとし、『学び合い』が展開されていきます。

今回1年生は、妙高アドベンチャーの中で、見事にこの学びを展開させました。「どうしたら早くできるようになるか?」「全員がクリアするためにはどうすべきか?」「どうしたらこの課題を解決できるか?」、そんな姿が随所に見られました。そして、男女やクラスの枠にとらわれずに、一緒に悩み・考え、課題をクリアしていく喜びを体感しました。この体験は、これからの生活の中でも貴重な体験となったと思います。

2日目のメイン活動は「哲学対話」でした。長野県立大学の馬場智一准教授をお招きし、お話を聞いたり、一緒に考えたりの活動をしました。私たちが「哲学対話」でねらっていることは、「議論に必要な能力（聴く、質問する、自分の意見をいう）」についての自己評価を認識し、よりよい方向へ意識をむけていくことでした。

相手の意見をじっくり聴くこと、質問することで新たな発見があることを知ること、自分の意見を明確に述べること、自分の意見の理由を述べることなどは、今、まさに社会から求められている力です。それを大学の先生のお話や投げかけ、ゲームなどを通して考えることができました。「哲学」というと難しい感じがしますが、1年生たちは普通に受け止め、自分の学びの中に取り入れることができました。これも貴重な体験となり、これからの生活に活かせそうな気がしました。

新年度早々、この5月初旬に、このような学習の取り組みを行うことに、改めて意味・意義を感じました。来年度は3年目となります。さらに学習の中身を充実させ、取り組んで参ります。



